

上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ
 差出シ右預ケ置キタル公債證書ノ全額ヲ取戻スヲ得ヘシ然ル上
 ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行
 ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ
 第六六條 右鎖店シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨ヲ
 差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取證書ヲ
 製シ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ

但シ出納頭ハ右受取證書ノ外ニ預リ證書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ
 回附シ置キ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ右通貨ノ受取方ヲ要スル
 ニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭ヘ渡スヘシ
 第七七條 右預リ證書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ稟議ヲ
 經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ

其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ從事スベシ

第八八條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ
 規定ニ從テ之ヲ燒捨シ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル諸計
 算其外トモ紙幣頭國債頭出納頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置クヘシ

第九十九條 第六十一條第九十三條第九十四條第九十八條第
 百三條ハ明治十六年五月五日第十四號布告ヲ以テ改正セラレタ
 ルモノニシテ其改正文ヲ掲載シタリ

第一百三十條 明治十七年十二月四日大藏省第四百四十號告示

鎖店國立銀行ノ貸金其他ノ證書中跡引受人ヲシテ左ノ書式ノ裏書又
 ハ繼書ヲナシ處分爲致候モノハ爾後裏書又ハ繼書ノ記名主之カ債主
 タルヘシ依テ右證書ニ對スル負債ハ該負債者ヨリ右記名主ニ向ヒ濟
 方可致者トス

右告示候事

(裏書又ハ繼書書式)但朱書

表書(繼書ナレハ表書ノ二字ヲ本文ノ二字ニ改ム)第何國立銀行明治
何年何月何日鎖店被申付候ニ付右處分ノ爲メ本證書ハ何(府縣)何郡
區(何町村)何番地何ノ誰ニ相渡候條明治十七年十二月大藏省第四百
十號告示ニ據リ右何ノ誰ニ負債濟方可被致候事

年 月 日

第何國立銀行跡引受人

姓 名 印
姓 名 印

○第二節 株式取引所米商會所

【第三百三十一】明治十五年八月十九日第四十六號布告

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ
景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿
ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ
禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアルヘシ

但本年第二十六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

右奉 勅旨布告候事

○第二編 詐偽ノ分散

〔本編解〕 佛國伊國等ノ法律ニ於テハ其商法第三編ニ共ニ分散ト倒産トノ事ヲ載セ身分ニ依テ分散倒産ノ事ヲ示サレタリ而シテ其刑法ノ罪ノ如キモ從フテ異ナル所ナシトスベカラズ然ルニ我邦ニテハ未ダ商法ノ頒布ナキヲ以テ身代限即チ家資分散ノ如キ身分ニ依テ如何ヲ定メラレシニ非ス刑法ニ明條セラル、不正ノ分散亦タ一般ニ通シタルモノニシテ身分ニ關セシモノニハ非ザルナリ

詐欺ノ分散ナル一編ヲ別ニ設クルト雖モ我現行法律ニ於テハ只タ二ヶ條アルノミ故ニコノ正條ヲ掲載シ而シテ我カ舊法及ヒ佛國獨逸ノ刑法中ヨリ分散又ハ倒産ニ關スル罪ノ正條ヲ引用セントス

第一 刑法第三編第二章ノ内

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若シハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

〔参考〕 明治九年十月十四日司法省第六十八號達
身代限ヲナス者詐偽ノ所爲ヲ以テ債主ノ損害ヲナシ及ヒ其詐欺ノ所爲ヲ助テ爲ス者ハ固ヨリ刑法ニ於テ其罪ヲ問フヘキハ兼テ

心得可有之候得共尙ホ爲念此旨相達候事

〔参考〕 佛蘭西刑法第三編第二卷第二章第二款第一節ノ内

第四百二條 商法ニ記スル場合ニ於テ倒産ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ

詐偽ノ倒産ノ罪アル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

通常ノ倒産ノ罪アル者ハ一月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサ

ル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第四百三條 商法ニ記スル所ニ循ヒ詐偽ノ倒産犯罪人ノ附從タル裁斷ヲ受ケシ者ハ其首謀ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第四百四條 手形賣買世話人及ヒ商業世話人ノ家資分散ヲ爲シタル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ若シ此等ノ世話人詐偽ノ倒産ノ罪ヲ犯シタル証アル時ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

【参考】獨逸刑法第二編ノ内

第二十四款 家資分散ノ事

第二百八十一條 債主ノ權利ヲ害スルノ意ニテ左ノ件々ヲ爲シ

タル分ノ商人ハ詐偽分散ノ罪ト爲シ徒刑ニ處ス可シ

第一項 其財産金銀爲替印及ヒ入額取ル可キ物ヲ云フ 請金ノ

一部ヲ隱匿或ハ騙取シタル者

第二項 偽詐ノ負債及ヒ其義務證券金銀取引ノ爲メニ設ケタ

務トノ全部又其一部ヲ承諾シ又ハ實ト認メタル者

第三項 法律ニ循ヒ記録ス可キ簿冊日本ノ所謂ル大福帳其他

ヲ有セサル者

第四項 其出入額ヲ曖昧トス可キ爲メ商用簿冊ヲ破毀隱匿シ

又ハ其簿冊ヲ曖昧ニ記シ又之ヲ書替ヘタル者

若シ酌量輕減アル時ハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

第二百八十二條 左ノ件々ニ於テハ十年ヨリ長カラザル徒刑ニ

處ス可シ

第一項 家資分散ノ商人ノ利益ノ爲メ其分散人ニ屬スル財産

又ハ價直アル物ヲ隱匿シ又ハ騙取シタル者

第二項 家資分散ノ商人ノ利益ノ爲メ又ハ己レノ爲メ又ハ他

人ノ爲メヲ論セス利欲ヲ得ルノ意ニテ自他ノ名ヲ以テ詐偽

ノ權利ヲ出訴シタル者

若シ酌量輕減アル時ハ禁獄ノ刑又ハ二千「マル」ヨリ多カラ

サル罰金ニ處ス可シ

第二百八十三條 左ノ件々ヲ爲シタル家資分散ノ商人ハ過失分

散ノ罪ト爲シ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

第一項 浪習又ハ博奕又ハ相場會所ニテ商品又ハ價直アル物
金銀義務ノ證券共ニ付キ相場ヲ爲シ許多ノ高ニ費用シ又許
他株金等ヲ云フ
多ノ負債ヲ契約シタル者

第二項 法律ニ循ヒ所持ス可キ簿冊ヲ有セス及ヒ出入額ヲ曖
昧トス可キ爲メニ其簿冊ヲ隱匿破毀シ又ハ正シク記録セサ
ル者

第三順 法律上ニ定メタル期限内ニ出入額ノ精算表ヲ作ラサ
ル者

〔参考〕 明治十七年二月廿五日長崎始審裁判所平戸支廳檢事ヨリ
司法省へ請訓

茲ニ身代限ニ際シ財産ヲ藏匿脱漏シ而シテ其所爲告訴ニ罹リ豫
審中ナル處相當ノ手續ヲ經テ其身代限ヲ取消ス者アリ斯ノ如キ

ハ財産取調ノ際一時之ヲ藏匿脱漏スト雖モ既ニ其負債ヲ悉皆辨
償シ毫モ債主ニ損害ヲ與ヘヌシテ身代限ヲ取消シタル以上ハ之
ヲ家資分散ト謂フヘカラス隨テ藏匿脱漏ノ結果ナキ者ナルヲ以
テ刑法第三百八十八條ノ問フ處ニ非サル乎將タ一旦藏匿脱漏セ
シ以上ハ假令家資分散ノ取消ヲ爲セシト雖モ該條ニ照依シ問罪
スヘキ乎

○内訓 十七年三月二十四日

身代限ニ際シ一時財産ヲ藏匿脱漏シタル者處分ノ件請訓ノ趣右
ハ揭示期限内ニ負債ヲ償却シ身代限ヲ取消シタル時ハ刑法第三
百八十八條ヲ適用スル限リニ在ラス此旨及内訓候也

○第三編 租税不納者處分

〔本編解〕租税未納ニ關スルモノハ凡ソ漏サズ載スベシト雖モ官吏ノ收税取扱方及ヒ記載表ナドハ畧シテ一モ載セザルナリ

只々單ニ租税未納者ノ處分ヲノミ載スルユヘ別ニ租税ノ賦課徴收等ニ關スルモノハ皆ナ之レヲ載セス

出訴期限ハ第一編ニ載セタルユヘ租税ニ關スル出訴期限亦タ彼ニ就テ知ルヲ得ベシ依テ茲ニ之レヲ載スルヲナシ

第一編ニ賠償及ヒ追徴ノ節ヲ置キタルモ彼レニ漏レシモノニテ本編ニ載スルヲ却テ正當トナスモノナキニアラス是等

ハ本編ノ各章ニ分載ス

布告布達告示達等ニシテ追々改正追加削除等ニカ、ルモノ

ハ其改正追加削除等ヲ直チニ本文トナシ欄外ニ其ノ改正ノ年月番號ヲ載スルノミ

○第一章 通則

〔本章解〕 本章ニハ國稅地方稅區町村費及ヒ協議費ニ通用スベキモノヲ載スルナリ

〔第一〕 明治十年十一月二十一日第七十九號布告

租稅未納ノ者ハ從來怠納金ヲ徵シ本人身代限ヲ以テ取立ル等ノ處分モ有之處自今右處分ヲ廢止シ更ニ左ノ通區別相立處分致スヘシ此旨布告候事

第一條 徵收期限 每期ヲ過テ尙國稅ヲ上納セサル時ハ之ヲ賦課シタル財產ヲ公賣シテ徵收スヘシ若シ其財產他人へ賣買讓與シタル時ハ之ヲ買受讓受タル者ヨリ完納セシムヘシ

十四年第五號布告
ニテ第一條中ノ一
後三十日
ナル四
字ヲ削ラ

但書入質入規則ニ從フ
地所質入ハ其ノ財產ニ未納稅アル時其債主ニ於テ辦納スヘシト申立ル者ハ其意ニ任セ公賣ヲ行ハス

第二條 營業稅ヲ上納セサル時ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公賣シ次ニ其器物ニ及ホスヘシ

酒類造石稅ハ前項ニ依テ處分シ仍ホ酒造用ノ諸建物ヲ公賣スルコトヲ得

但酒類並酒造用諸建物器物ハ自他ノ所有ヲ問ハズ其一部又ハ全部ヲ公賣シテ徵收ス

第三條 府縣稅民費モ此規則ニ準シテ處分スヘシ

但各別ニ財產ヲ指定メテ賦課セサル民費徵收ニ付テハ土地家屋ヲ除キ他ノ財產ニ付先取特權アリトス

第四條 凡租稅不納ニ付財產ヲ公賣セントスル時ハ地方官ニ於テ處

十七年六號布告ニ
テ第二項
ヲ改正セ
ラル

分シ先ツ公賣ニ關スル入費ヲ引去リ而後國稅府縣稅民費ヲ徵シ剩餘アル時ハ之ヲ本人ニ還付ス若シ不足アル時國稅府縣稅ハ官ノ損失ニ歸シ民費ハ該區ノ損失ニ歸ス

但該財產ニ付テ區戶長役所ノ帳簿ニ記載セル債主アル時ハ其殘金ヲ順次其債主ニ給付ス

第五條

第六條 財產公賣ノ際買請望人無之節該財產ハ之ヲ官沒スヘシ

附則

此布告ニ矛盾スル布告布達ハ廢止トス

第二 明治十一年二月廿一日大藏省乙第七號達

租稅未納ノ者處分ノ儀昨十年第七十九號公布相成候ニ付取扱方左ノ通可相心得此旨相達候事

十一年第
三十四號
布告ニテ
第五條第
六條ヲ追
加シ而シ
十四年第
十五號布
告ニテ第
五條ヲ削
除セラル

本號達中

ニ「納期
後三十日
」ヲ過テ
公賣處分
ヲナス云
々ニ關ス
ル項々ハ
十四年第
十五號布
告アルヲ
以テ自然
消滅スル
モノナリ

一 租稅不納ニ付一旦裁判所へ相廻候モノト雖モ第七十九號公布到達ノ日ヲ界トシ未タ身代限ノ處分ニ不取懸分ハ右公布ノ通地方官於テ處分スルモノトス

但怠納金徵收中ノ分ハ本文公布到達ノ日ヨリ怠納金免除并公布ノ次第未納人へ諭達シ尙三十日ヲ過テ不納ノ分ハ成規ノ通處分スルモノトス

一 改租着手中ノ分ハ納期後三十日ヲ過キ尙不納ニ候共租額確定セサルノ故ヲ以テ其地所公賣ノ處分ニ及ハサルモノトス此際若シ本人他ノ負債ノタメニ身代限ノ處分ニ係ルルハ裁判官ニ照會シ假額中ト雖モ納期後三十日ヲ過レハ該地ヲ公賣シ其年石代相場ヲ以テ前年ノ租額ヲ徵收スルモノトス
但其年石代未決ナレハ前年ノ石代ヲ以テス

一他ノ負債上ヨリ身代限ノ處分相成ル際稅納ノ期限ニ至リ不納ノ分ハ其旨裁判官ニ照會シ其未納ニ係ル財產ハ成規ノ通公賣ノ處分ニ及フモノトス

但裁判官ニ於テ已ニ財產糶賣ニ及ヒシ場合ニ於テハ裁判官ニ照會シ其糶賣代價ノ内ヨリ受取ルベシ

一明治六年(一月十七日)第十八號公布地所質入書入規則ニ照シ質入セシ地所ノ租金質取人ニ於テ未納スルハ一應質入人へ相達シ納稅セシメ不苦若シ之ヲ納メサルニ於テハ成規ノ通處分スヘシ

一前納ニ非ル營業稅未タ納期ニ至ラサルモ他ノ負債上ヨリ身代限ノ處分相成ルハ裁判官ニ照會シ其製造品及其器物ヲ公賣シ其期節ノ稅金徵收スルモノトス

一逃亡失踪ノモノ納期後三十日ヲ過キ歸籍セズ納稅セザルハ其遺

族親戚財產保管人等へ相達シ成規ノ通處分スルモノトス

但懲役人及ヒ犯罪拘留又ハ繫獄中ノ者等總ヘテ本文同様處分スルモノトス

一營業稅等不納ノモノハ一旦營業停止其製造品及ヒ其器物ヲ公賣シ尙不足ヲ生ル者ハ官ノ損失ニ歸スルハ勿論ナレモ後來再營業ヲ願出ルルハ最前官ノ損失ニ歸セシ金員ヲ更ニ上納セシ上ハ許可スルモノトス

但本文更ニ上納セシ金員ハ其收入セシ年度ノ稅外收入へ組入ルモノトス

一釀造稅ハ四月三十日限凡半方徵收ノ筈ニ候處右期限前釀造石數檢査後他ノ事故ニテ裁判所於テ身代限ノ處分ニ相成候時ハ其節迄ノ酒相場平均ヲ以テ實際釀造着手ノ石高ニ應スル釀造稅收入決算ス

以下二項
ハ十三年
大藏省乙
第二十六
號ニテ追
加セラレ

ルモノトシ現存ノ酒類并器物等公賣徵稅方裁判官へ照會致スヘキ
トトス

一 公賣處分ハ納期後三十日ヲ過レハ其翌日ヨリ日數三十日以内ニ完
了スヘキモノトス

一 若シ財産賣却代價不足ナル乎或ハ買受望人無之完納ノ場合ニ至ラ
サル分ハ處分濟ノ後日數十五日以内ニ勘定拂ヲ申稟スヘシ

〔第三〕 明治十六年九月十四日大藏省第五十九號達
諸營業免許ノ者納稅期限前旅行又ハ失踪シ右期限ヲ過キ歸籍セス稅
金不納ノモノハ明治十一年當省乙第七號達第六項ニ據リ處分スヘキ
ノ處其財産ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ右期
限後四十五日以内ニ一旦勘定除却ノ義稟申シ他日本人歸籍又ハ所在
發見シタルキ毎期ニ係ル不納稅ヲ追徵候義ト可相心得此旨相達候事

但當初勘定除却ノ後チ三ケ年ヲ經過シ尙完結セサルキハ其際更ニ
處分方稟申スヘシ

〔第四〕 明治十七年二月一日愛媛縣ヨリ大藏省へ伺

第一條 租稅不納者財産公賣處分ノ義ハ納期翌日ヨリ三十日以内ニ
完了スヘキ等ニ付既ニ公賣處分決行シタル後稅金完納スルモ公賣
處分取消ノ限リニ無之ハ勿論ニ候得共公賣金ニテ稅額ニ不足ナ生
シタルモノ右期日以内ニ於テ其不足金ヲ完納スルトキハ最前引揚
タル鑑札ヲ返付シ營業繼續爲致可然哉

第二條 同上無財産ノモノハ鑑札引揚ケ營業ヲ停止シ稅金官損拂ノ
儀ヲ申稟スル迄ニテ不納者ニ對シ別段處分ノ手數ハ無之候得共納
期翌日ヨリ三十日迄ハ處分中ノモノト見做シ右期中ニ於テ稅金
完納スルトキハ前條ト同シク營業繼續爲致可然哉

○指令 十七年三月十四日

第一條 公賣處分決行後ハ假令處分期限内其欠額ヲ追納スルト雖モ營業繼續セシムル限リニアラス。

第二條 前條ニテ了解スヘシ

第五 明治十七年四月廿六日大藏省第二十六號達

明治五年第二百八十五號及同九年第四號公布ニ據リ租稅未納者身代限處分濟追徴スヘキ金額ハ自今棄捐ス此旨相達候事

但諸印紙賣捌人ニ係ル未納金ハ此限ニ非ス

第五解 明治五年第二百八十五號布告ハ租稅ノ不納者ニ對シ納

期後ハ一ヶ月ニ至ルモ上納セザルトキハ身代限ノ處分ヲ以テ元利其年ノ七月ニ至ルモ上納セザルトキハ身代限ノ處分ヲ以テ元利トモ上納セシムル法ニシテ九年第四號布告ヲ以テ之レヲ改正シ

附錄 明

治十三年

十一月十

二日第五

十號布告

本年(六

月)第三

十一號布

告ヲ以テ

定メタル

備荒儲蓄

金ヲ怠納

スル者ハ

十年(十

一月)第

七十九號

布告ニ據

怠納金ヲ百分ノ五(五分)トナシ納期後一ヶ月ヲ經ルモ上納セザルトキハ身代限ノ處分ヲ以テ元利金ヲ上納セシムルトセラレ而

ノ是等ノ法律ハ明治十年第七十九號布告ヲ以テ尽ク廢止シ更ニ公賣處分ノ法トセラル

第一 即チ是ニシテ現行ノ法律ナリ斯ク現行ノ改正アリト雖モ改正規則頒布以前ニ處分セラレタルモノハ矢張り身代限ノ追徴ヲ爲シ來ラレシモ我が大藏省ハ本號ノ達

ヲ以テ茲ニ其ノ追徴ヲ棄捐セラレタリ只タ棄捐セラレザルハ印紙賣捌ノ未納稅ノミナリ

第六 明治十六年八月八日第三十一號布告

徵發令ニ依リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ明治十年十一月第七十九號布告ニ依リ處分ス可シ但財產公賣ノ際買受望人ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス

リ處分ス
ベシ但該
儲蓄金ヨ
リ給與補
助若クハ
貸與ヲ受
ルモノハ
免除スヘ
シ此旨布
告候事

右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ル可シ
右奉 勅旨布告候事

〔第一章餘解〕公賣處分ヲ經タル地券書換訴件ノ義ニ付キ明治十六年大藏省第七號達アリ第一編〔第五十六〕ニ載ス就テ知ルヲ得ベシ

○第二章 國稅ニ關スルモノ

○第一節 地所ニ關スルモノ

〔第七〕 明治十四年二月十七日第十四號布告
明治十年七月第五拾三號布告地租徵收期限ノ儀明治十四年分ヨリ左ノ

十五年第
二十四號
布告ニテ
但書ヲ改
正セラル

通改定候條此旨布告候事

但市街宅地地租ノ義ハ該年七月翌年一月兩期ニ其五分宛テ収納スヘシ

地租徵收期限

畑方及宅地山林原野牧場

一期同	該年七月一日ヨリ 八月卅一日限	同	五分
二期同	九月一日ヨリ 十月卅一日限	同	五分
三期同	十一月一日ヨリ 十二月十五日限	田方	五分
四期同	翌年二月一日ヨリ 三月卅一日限	同	五分

十四年第
三十六號
布告ヲ以
テ四期ヲ
改正セラ
ル

第八 明治十七年三月十五日第七號布告ノ内

地租條例

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ開墾地ハ十五年以内ノ歳下期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徴収ス

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逃脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條第十六條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其免租地ヲ有租地ト爲シ又ハ開墾ヲ爲スコトヲ許可

スヘキモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○第二節 雜

本節解 本節ニハ國稅ニ關スルモノニシテ地租ヲ除ク外ノ未納稅處分ニ係ルモノナレドモ一々之レヲ載

スルトキハ當ニ贅ニ失スルノミナラズ本書編著ノ主旨ニ反スベキユヘ只々二四ノ雜稅ヲ摘載ス其ノ礦山稅未納者處分ノ如キ日本抗法ヲ拔萃セズシテ伺指令ヲノミ揭ケタルモ蓋シ此ノ意ニ外ナラザルナリ

第九 明治十六年十一月十三日工部省第六號達

日本抗法第八章第三十一款改正増補之儀十四年九月第四十九號公布相成候處處分方遷延ノ向モ有之不都合候條以來怠納者ハ二月一日ヲ以テ斷然證券取揚營業禁止候儀ト可相心得此旨相達候事

但本文ノ場合ニ於テハ同法第三十二款ニ照シ税金徴収ニ不及候事

参考 明治十四年九月二十二日第四十九號布告

明治六年^七月^七第二百五十九號布告日本抗法第八章中左ノ通改正追加候條此旨布告候事

第三十一

第一項中前一ヶ年分ヲ鑛山寮ヘ納ムヘシトアルヲ其年一ヶ年分ヲ前納スヘシト改ム

同項結尾但怠納者ハ借區券ヲ取揚クヘシヲ追加ス

第四項借區初年ノ區稅ハ月割ニテ納ムヘシトアルヲ借區初年

ノ區稅ハ月割ヲ以テ借區券下付ノ節前納スヘシト改ム

第十 明治十七年二月廿五日嶋根縣ヨリ工部省ヘ伺

本縣下石見國那賀郡嘉久志村宇久來奧ニ於テ京都府下丹後國加佐郡舞鶴竹屋村平民澤田勇信義一昨十五年六月借第二千六百十二號ヲ以テ銅鑛借區御許可之者ニ候處本年分借區税金不納借區券所持之儘失踪候旨届出候ニ付日本抗法第三十二款ニ照準本縣ニ於テ處分之上具狀可致哉此段相伺候也 但借區券引揚方之義本籍京都府ヘ及照會

置候ニ付追テ何分可致上申候也

○指令 十七年三月八日

書面之趣客年十一月當省第六號達ニ照シ處分可致候事

〔第十一〕明治十七年三月三日福嶋縣ヨリ工部省へ伺

鑛山稅納期ヲ過キ上納セサルモノハ客年十一月御省乙第六號御達ニ據リ營業ヲ禁止證券還納方達シタルニ納稅者右達相成リタルヲ知ラヌ途中行違等ノ爲メシテ稅納セントスルモノ或ハ其達ヲ受ケ而シテ後本人又ハ親戚等ヨリ完納センコトヲ請願スルモノ、如キハ將來ヲ誠メ該達ヲ解キ徵稅ス可キ哉又ハ一旦處分ノ達ヲ爲シタル上ハ之ヲ解放スルノ限ニ無之哉

○指令(電報) 十七年三月廿五日

本月三日付書面後段伺之通

〔第十二〕明治十七年三月十二日福岡縣ヨリ工部省へ伺

縣下各郡之儀諸鑛業借區人多數ニ候處曩ニ日本抗法中坑區稅不納者處分追加且近來ノ不融通ニ際シ該不納處分ヲ受ルモノ多ク有之而シテ該處分後猶借區出願スル者ノ如キハ抗法中明文無之候得共直ニ出願許可ヲ要スルハ甚不都合ニ付如斯モノハ凡一箇年間位出願權ヲ停止シ追テ身代立直リ候ト認定スルノ期ニ至リ出願許可ヲ要シ候様致可然哉

○指令 十七年三月三十一日

書面再ヒ借區請願許可不相成候事

〔第十三〕明治十七年三月十九日茨城縣ヨリ工部省へ伺

當縣下久慈郡龜作村石綿雲母鑛借區人東京府士族中村能敬儀明治十四十五十六三年分坑區稅不納ニ付處分方再應相伺候未借區券引揚返

納可致旨御指令ニ付直チニ區券返納ノ義相違今般該區券引揚候尤豫
テ上申致置候通本人礦場ニ屬スル運移スヘキモノ更ニ無之候ニ付抗
法第三十二款ニ照シ處分難致ト存候間其儘差置可然哉

○指令 十七年四月十四日
伺之通

第十四 明治十七年三月二十四日佐賀縣ヨリ工部省ヘ伺ノ内

第二條

一税金怠納者證券取揚營業禁止ノ者ハ日本坑法第八章第三十二款ノ
税金徴収ニ不及旨客年六號御達ノ趣敬承然ルニ右處分ノ者ニシテ
尙坑業明細表不差出モノハ無論開報違期ノ罰則ニ據ルヘキモ固ヨ
リ税金サヘ怠納スル程ノ者ニテハ實際行レ兼就テハ第八章第三十
二款ニ照準處分可然哉

第三條

一借區券ヲ抵當ニシ金子ヲ借入レタルモノ諸條款ニ記セル税或ハ罰
金償金等ヲ納メサル片ハ無論債主ニ關係ナク第八章第三十二款ニ
照準處分可然哉

○指令 十七年四月二十一日

第二條 已ニ借區券引揚ノ處分ヲ受タルモノト雖モ開報違期ノ罪ハ
其筋ヘ告發處分可及儀ト心得ヘシ

第三條 鑛山心得第二條ノ手續ヲ踐履シ貸借ヲ爲シタル者税納ヲ怠
ル片ハ其債主ニ於テ納税ノ上證券名前替之儀上申致スヘク其他伺
之通

第十五 明治十七年四月一日茨城縣ヨリ工部省ヘ伺

椽木縣下宇都宮町平民八木澤正三曾テ當縣下常陸國西茨城郡下赤澤

村ニ於テ滿俺坑借區許可相成居候處鑛區稅未納ニ付伺濟ノ末區券引揚ケノ儀原籍郡役所へ問合候處同人義ハ東京府下移轉致候ニ付同府下等及搜索候得共行衛不相分旨當時上申候處本人見當リ次第證券引上返納可致旨御指令ニ付其旨所屬警察署へ相達シ尙原籍へモ搜索方及照會置候ニ付區券引上ケ次第直チニ返納可致候得共右引上ケ方相違シ候上ハ本人搜索中ト雖モ該區券ハ無効ト見做シ其坑場ニ於テ借區開坑ノ義出願者有之候節ハ御許可相成候儀ニ可有之哉果シテ然ラハ其坑場ニ屬スル運移スヘキ物品保管中ニ係ルモノハ區券引上ケト同時ニ坑法第三十二款ニ照シ處分可致儀ニ候哉

○指令 十七年五月六日
書面前段伺之通尤坑場附屬ノ物品ハ坑法第三十二款ニ照シ處分ノ限ニ無之候事

第十六 明治十七年三月十八日山形縣ヨリ工部省へ伺ノ内
一前項ノ如ク死亡跡相續人該借區場讓渡出願中願書進達ノ分或ハ書引直シノ爲進納期ニ至リ一月税金怠納ノ者ハ客年第六號御省達ノ趣ニ照準無効ノ證券還納ノ儀相達スル迄ニ止リ可然哉

○指令 十七年五月十四日
第二條 伺之通

第十七 明治十七年五月二十七日茨城縣ヨリ工部省へ伺
客年十一月御省達第六號中己來怠納者ハ二月一日ヲ以斷然證券取揚營業禁止云々但書ニ本文ノ場合ニ於テハ同法第三十二款ニ照シ税金徴収ニ不及ト有之然ルニ右御達已前乃チ去ル十五年度分坑區稅怠納ニ係ル八木澤正三儀ニ付處分方本年四月一日付ヲ以テ相伺候處坑法第三十二款ニ照シ處分スルノ限ニ無之旨同五月六日付御指令ニ據レ

ハ曩ニ太政官第二百五十九號公布日本抗法第三十二款中稅或ハ罰金
償金等ヲ納メサルキ云々トアル該稅ノ如キハ孰レノ場合ニ適用可致
儀ニ候哉

○指令 十七年六月十四日

書面抗法第三十二款ノ稅ハ借區稅前納抗物稅廢止中ハ適用ノ場合無
之儀ト可相心得候事

〔第十八〕明治十七年五月二十三日長崎縣ヨリ工部省ヘ伺

坑區稅不納ニシテ券狀引上候者ハ再ヒ借區請願許可不相成旨福岡縣
伺ヘ御指令之趣官報第二百二十五號掲載之通ニ付不取敢管下ヘ其旨
布達致置候處今壹人ニテ甲乙貳箇所ノ借區ヲナス者アリ甲ノ方稅金
不納ニ付券狀引上候節ハ乙ノ方設令稅金相納候共借區券引上ヘキ儀
ニ候哉又稅金相納候箇所ハ依然坑業爲致可然乎

○指令 十七年六月十日

書而後段伺之通

〔第九乃至第十八〕該十件ハ皆ナ坑區稅不納者ヲ處分スベキ事
柄ニ關スルモノニシテ日本抗法第三十二款ト自ラ關係ヲ有スル
モノナリ

〔第十九〕明治十五年十二月二十七日第六十七號布告

明治十一年九月第三十號布告株式取引所稅額ノ儀手數料其他現収セル
總金高十分ノ一トアルヲ賣買手數料總金高十分ノ一ト改ム但來十六
年四月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

〔第二十一〕明治十五年十二月二十七日第六十六號布告

明治九年八月第百五號布告米商會所條例第十條第三節中約定代金高十

分ノ二トアルヲ十分ノ一ト改メ第十五條第一節中賣買手数料総金高十分ノ四トアルヲ十分ノ二ト改ム但來十六年四月一日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

〔第二十一〕明治十五年十二月二十七日第六十五號布告

米商會所並株式取引所仲買人納稅規則左ノ通制定シ來十六年四月一日ヨリ施行ス

米商會所株式取引所中仲買人納稅規則

- 第一條 米商會所仲買人定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ五ヲ納稅スヘシ
- 第二條 株式取引所株式仲買人公債證書并諸株式ノ定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ一ヲ納稅スヘシ
- 第三條 第一條第二條ノ場合ニ於テ定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者

ハ其轉賣又ハ買戻ニ係ル稅ヲ免除ス

- 第四條 株式取引所金銀貨仲買人金銀貨ノ取引ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各其取引代金高千分ノ二半ヲ納稅スヘシ
- 第五條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之ヲ還付セス
- 第六條 税金ハ會所又ハ取引所ニ納ムヘシ
- 第七條 會所及取引所ハ仲買人ヨリ納メタル税金ヲ每一箇月取纏メ翌月十日限り地方廳ニ上納スヘシ
- 第八條 税金徴収ノ方法ハ大藏卿ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第九條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムヘシ
- 第十條 税金ヲ納メスシテ賣買取引スル者ハ脫稅高三倍ノ罰金ニ處ス但此場合ニ於テハ仲買人タル認許ハ其効ヲ失フモノトス

第十一條 前條ノ罰金ハ仲買人ノ身元金ニ對シテ第一先取ノ特權ヲ有スヘシ

第十二條 會所及取引所ニ於テ本則納稅ノ取縮ヲ怠ルトキハ米商會所條例第十九條第一節株式取引所條例第四十八條及本年第四十六號布告ニ依リ處分シ仍ホ其資本金ヲ以テ納稅ノ欠額ヲ追徴スヘシ
右奉 勅旨布告候事

〔第二十二〕 明治十六年三月十七日大藏省號外達

客年^{十二}第六十五號布告第八條ニ據リ米商會所株式取引所仲買人稅金徵収方法別紙ノ通相定候條此旨相達候事

但米商會所株式取引所及其仲買人ハ地方廳ヨリ相達スヘシ

(米商會所株式取引所)仲買人稅金徵収方法

第一條 仲買人稅金収納ノ爲メ(米商會所株式取引所)ハ豫テ其帳簿(種

目毎ニ)仲買人各個賣買品高其相場及ヒ代金ヲ廉限リ記載シ之ヲ仲買人稅金取扱帳ト稱スヘシ

仲買人ハ納稅ノ爲メ豫テ納稅通帳ヲ調製シ各自賣買品高其相場及ヒ代金ヲ廉限リ記載スヘシ

但本文稅金取扱帳ハ米并諸公債証書等前場後場本場二番ヲ區別シ小計ヲ付シ月末ニ至リ月計ヲ付スヘシ

第二條 仲買人稅金ヲ仲買人ヨリ(米商會所株式取引所)ニ納付スル期限ハ左ノ如シ

一米ハ本証據金差入ノ時

一諸公債証書株式及金銀貨幣ハ手数料差入ノ時

第三條 仲買人稅金納付手續左ノ如シ

一仲買人ハ納稅帳ニ記載ノ賣買代金額ニ應スル稅金額ヲ算出シ該

帳ヲ添へ其金額ヲ(米商會所株式取引所)ニ納ムヘシ
 一(米商會所株式取引所)ハ仲買人ヨリ納ムル所ノ税金ヲ税金取扱帳
 ニ照査シ其金額ヲ領収シ仲買人納税帳ニ領収証印ヲ捺シ之ヲ還
 付スヘシ

但本文納税帳ニハ証券印紙貼用ニ及ハス

第四條 仲買人税金徴収ノ爲メ(米商會所株式取引所)ハ肝煎ノ中ニ於
 テ擔當員ヲ定メ其氏名并ニ領収ノ印鑑ヲ地方廳へ届置クヘシ

第五條 (米商會所株式取引所)ハ仲買人税金每一ヶ月分取集メノ上(第
 一號第二號)離形ニ做ヒ上納証書及仕譯書ヲ作り金額ハ當省爲換方
 ニ右証書ニ預リノ証印ヲ得テ地方廳へ上納スヘシ

第六條 地方廳ハ別紙第三號離形ニ做ヒ仲買人税表ヲ調製シ(一月ヨ
 リ六月マテ)ハ其年七月三十一日限リ(七月ヨリ十二月マテ)ハ翌年一

月三十一日限リ當省租税局へ差出スヘシ

第七條 税金取扱帳及ヒ納税通帳ハ米商會所株式取引所限リ適宜一
 様ノ式ヲ定メ地方廳ヲ經由シ當省租税局へ届出ヘシ

但其様式ヲ變更スルハ其時々本文ノ手續ヲ爲スベシ
 (離形零ス)

第十九乃至第廿二解 該五件ハ米商會所及ヒ株式取引所ニ關ス
 ルモノニシテ或ハ租税未納公賣處分ニ關係ナキモノモナキニ非
 ズト雖モ本書ノ參考トモナルベキモノ二三ヲ載セタリ敢テ編者
 ノ贅筆ナリト斥ケラル、コ勿レ

第二十三 明治十六年十一月八日岐阜縣ヨリ大藏省へ伺

第一條 酒類造石税不納ニ付一旦營業ヲ停止シ鑑札ヲ返納セシメ其
 製造品及器物トモ公賣揭示中本人ヨリ其不納金ヲ上納スルカ又ハ

債主ヨリ辨納シ公賣處分取消ノ儀願出開届ルトキハ曩ニ返納セシ
メシ鑑札ハ再ヒ下渡シ營業停止相解キ可然哉

第貳條 營業稅又ハ造石稅不納ニ付其製造品并諸器械等取調已ニ其
一部製造ヲ公賣徵收シ其他製造器械揭示中本人又ハ債主ヨリ不納金完
納スヘキ旨ヲ以テ公賣處分取消ヲ出願スルトキハ開届可然哉
右相伺候至急御指揮被下度候也

○指令 十六年十二月三日

第壹條申出ノ通

第貳條製造品又ハ器械ノ内其一部分公賣決行セシ上ハ取消ノ限ニア
ラズ

○第二十三解 本件ニハ醫麴及ヒ酢もヒモ通用スベキモノナルベ
シ

○第三章 地方稅ニ關スルモノ

○
本章解 地方稅ト雖モ公賣處分ノ如何ニ至リテハ敢テ國
稅ト異ナルモノアラザルユヘ渾テ第一章ナル總則ニ讓リ
只タ本章ニハ單ニ地方稅ニ關スルモノヲ摘載スルノミ

○第二十四 明治十一年十一月廿八日內務省乙第七十九號達ノ内

本年第十九號公布中左ノ條々處分方心得ノ爲メ相達候事

一地方稅ヲ不納スルモノ十年第七十九號公布ニ據リ財產公賣徵收ス
ルモ猶不足スル片ハ其欠額ハ管内一般ノ損失トシ賦課スヘシ

○第二十五 明治十一年四月三十日內務省乙第三十八號達

租稅未納ノ者處分之儀昨十年十一月第七十九號公布相成右取扱方ニ

付大藏省ヨリ本年二月乙第七號ヲ以テ達シ有之候處民費ノ儀ハ目下
支消スベキ費用賦課徴収候筋ニテ改正未濟地租假納ト同様ノ振リニ
ハ無之ニ付納期三十日ヲ經過候ヘハ直ニ七十九號公布規則ニ準シ處
分可致筈ニ付爲心得此旨相達候事

但民費不納公賣ノ節假納中ノ地租ヲ徴収スル時ハ其年ノ石代相場
ヲ以テスヘシ其年ノ石代未決ナレバ前年ノ石代ヲ以テスヘシ

本章餘解

戸數割地方税ノ如キ其納期ヲ經ルモ上納セザルモノ
ハ公賣處分ニ行ハル、ハ勿論ニシテ而シ明治十年第七十九號布

告第三條但書(第一)ヲ見ヨニ依リ土地家屋ヲ除キ其他ノ財産ヲ

公賣シコレヲ先取スルノ特權アリトス

宅地ニ賦課シタル地方税ヲ上納セザルモノニシテ失踪シタルヲ
以テ其宅地ヲ公賣ノ處分ニ行フベキ處其宅地ニアル建物ヲ他ヘ

書入質ト爲シアルトキハ此ノ建物ニ限り公賣ニ處スベキモノニ
非ザルナリ

地方税中月税ノモノ期ヲ過テ上納セザルトキハ其營業ヲ停止シ
其ノ器物ヲ公賣スルモノナリ依テ不足ヲ生ズルモ他ノ財産ニハ
及ボス可カラザルモノトス

營業税雜種税ヲ期ヲ過テ上納セザルトキハ其營業ヲ停止シ販賣
品アラバ之レヲ公賣シ次ニ器物ヲ公賣スルモノナリ依テ不足ヲ
生ズルトモ他ノ財産ニハ及ボスベカラザルモノトス

藝妓營業人遊藝稼人ノ税金ヲ上納セザルトキハ其鑑札ヲ取上ケ
營業ヲ停止セラル、マデニシテ他ノ財産ヲ公賣スベキモノニハ
アラザルナリ

○第四章 區町村費ニ關スルモノ

〔本章解〕 本章ニハ區町村費土木費及ヒ協議費ノ事ヲ載スルナレドモ法文只一ニ止リ佗ハ編者ノ餘解ニ止ルモノナルユヘ併セテ本章ニ列載スルナリ

〔第二十六〕 明治十七年五月七日第十五號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納者ハ總テ明治十年十一月第十七十九號布告ニ據リ處分ス可シ若シ財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ戶長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取リ府知事縣令ノ認可ヲ得テ處分ス可シ

但明治十四年四月第二十四號布告ハ廢止ス
右奉 勅旨布告候事

〔第二十七〕 明治十七年十一月十八日太政官第九十四號達

凡ソ官有地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除クノ外其所在區町村費ノ賦課ニ應セサル儀ト心得ヘシ此旨相違候事

但道路疏水等ノ爲メ該區町村へ手當金ヲ給與スルハ各々適宜タルベシ

〔本章餘解〕 協議費ハ明治十年第七十九號布告ニヨリテ不納者ヲ直チニ公賣ノ處分トナスコトハ能ハザルモノナリタトヘ其協議費ガ區町村會ノ決議ニ成ルモノタリトモ裁判官ニ出訴勸解ヲ經ルニ及バスシテ裁判ヲ仰ギ身代限ノ處分ヲ受クベキナリ彼ノ區町村費ト決シテ同日ノ論ニハ非ザルナリ

○第五章 租稅延納

本章解 本章ニ備荒儲蓄金ノ事ヲ載スルハ甚ダ當テ得ザルヤノ見ヲ爲スモノモアルベクレドモ素ヨリ租稅ノ不納ニ關係アリ而シテ延納ニ及ホスモノナルユヘ敢テ贅ナリトセズ茲ニ掲載スルコトハナシヌ

〔第二十八〕 明治十三年六月十五日第三拾壹號布告

備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度(明治十四年一月一日)ヨリ施行候條明治八年(七月)第百廿二號達究民一時救助規則及同十年(九月)第六十二號布告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

別紙

備荒儲蓄法

第一條 備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租(國稅ノ部分ニ限ル)ヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス

第二條 各府縣ハ土地ヲ有スル人民ヨリ地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金ヲ設ク可シ各人ヨリ公儲スルノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政府ヨリ配付スル金額ヨリ少カラザルヲ要ス

但市街ハ府縣會ノ議決ヲ以テ政府ノ許可ヲ得郡村ト其徵收法ヲ異ニスルヲ得

第三條 政府ハ每歲百貳拾萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ヲ補助スヘシ

第四條 政府ヨリ補助スル金額ノ内三拾萬圓ハ中央儲蓄金トシテ大藏卿之ヲ管掌シ九拾萬圓ハ各府縣ノ地租額ニ應シテ之ヲ配付スヘシ

第五條 府縣儲蓄金ヲ徵収シ管守シ支給シ及ヒ之ヲ一處ニ集儲シ數所ニ分儲シ或ハ米穀ヲ購入スルノ方法ハ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取り内務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ但シ米穀ヲ儲積スルハ儲蓄金ノ半額ヲ超ユヘカラス他ノ半額ハ公債証書ニ交換シ置クヘキ者トス

第六條 府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スル

ハ一戸拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸貳拾圓以内トス

第二 地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金三分二以上ヲ供用支出スルルハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ

第八條 従前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條 各府縣内儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歳次或ハ臨時ニ之ヲ検査スヘシ

第十條 府知事縣令ハ毎年七月中ニ其府縣儲蓄金ノ出納ヲ内務大藏

兩卿ニ報告シ兩卿ハ每年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納ヲ全國ニ公布スヘシ

第十一條 此方法ハ二十ヶ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ

第二十九 明治十七年六月十二日三重縣ヨリ大藏省ヘ伺

荒地年季中宅地トナリタルモノハ翌年ヨリ収税ノ儀ト心得可然哉

○指令 十七年六月十九日

地租條例第二十二條ニ據リ年期中ハ地價修正ニ及ハス

第五章解 租税ノ延納ニ關スル法律令訓等ハ甚ダ夥シトセザルモノ々之レヲ載スルヲナシ只タ地租條例ニ關スル一ノ伺指令ヲ標準ノタメ載セタルノミ抑モ又タ本書ノ主旨ニ反スルノ慮リア

ル故ナリ

○第六章 租税官吏カ犯則ヲ搜索ス

第三十一 明治十六年十二月二十日第四十三號布告

酒造税則醫藥營業税則賣藥印紙税則烟草税則ニ關シ租税官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ証票ヲ携帯スベシ
右奉 勅旨布告候事

第三十一 明治十六年十二月廿一日大藏省第七十七號達

本年第四十三號布告ニ依リ人民ノ家宅内ニ立入り証憑取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日没前ニ於テシ其地戶長若クハ用掛隣佑ノ内ヲシテ立

會ハシメ候様取計フヘシ此旨相達候事

第三十二 明治十七年一月十日長崎縣ヨリ司法省へ伺(電報)

客年第四十三號公布ニヨリ主任官吏犯則ノ證憑取調ルル并本人拒ムトモ家宅倉庫ヲ搜查スルノ權アリヤ

○指令 十七年一月十四日

客年第四十三號公布ニ依リ家宅倉庫搜查ノ件ハ伺ノ通

第三編餘解

既ニ第一編第二編ニ掲載シタルモノハ追々本編ニ略スルモノアルヲ以テ宜シク前二編ト參照援引スベシ

現身代限法解終行

明治十八年四月三日御届
全 十八年五月 日出版

定價金六拾錢

編纂人 廣島縣士族 戶田十畝

備後國御調郡尾道久保町百五拾九番邸寄留

出版人 廣島縣平民 木村清三郎

備後國御調郡三原町千八拾番地

發兌人 柳原喜兵衛
全 花井卯助

大阪東區北久太郎町四丁目
大阪東區安土町四丁目

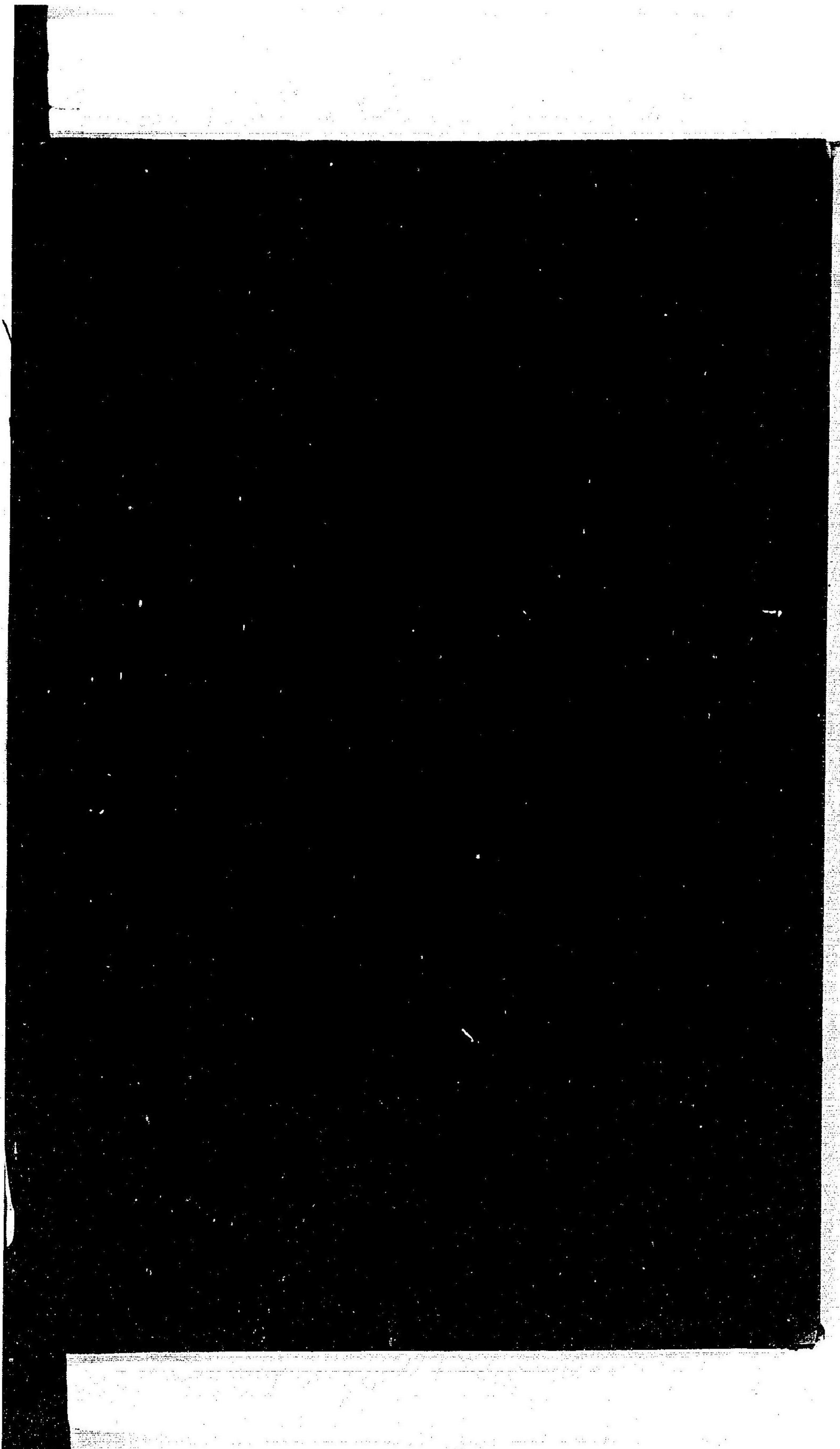
發兌人	大村安兵衛	大阪東區博勞町四丁目
全	鹿田靜七	大阪東區安土町四丁目
全	梶田喜藏	大阪東區南本町四丁目
全	三木半兵衛	備後尾道土堂町八十五番邸
發賣所	松村善助	
全	以文社	
全	清水庫三郎	
福山	原田治助	
全	藤村喜兵衛	

各地書肆賣捌所

大阪	吉岡平助	森本太助
全	岡嶋真七	山口恒七
全	岡田茂兵衛	中嶋徳兵衛
全	北村孝二郎	赤志忠七
全	梅原龜七	中川勘助
全	三木佐助	此村彦助
全	中野啓藏	此村庄助
全	淺井吉兵衛	鹽谷芳兵衛
全	前川善兵衛	北尾禹三郎
全	辻本信太郎	中尾新助
全	松村九兵衛	小川新助
全	前川源七郎	小谷卯八郎

大阪	濱本伊三郎	備後府中	三藤宗兵衛
全	熊谷幸助	安藝廣嶋	友田藤助
全	青木恒三郎	全	早速社
全	湯川孫兵衛	雲州松江	園山喜右衛門
兵庫神戸	無井政太郎	長州舟木	中原卯兵衛
近江大津	澤宗二郎	筑前福岡	林斧助
播磨姫路	山野長平	肥前長崎	米原多藏
備前岡山	弘文北社	肥後熊本	長崎次郎
全	武田彌三郎	伊豫松山	土肥與平
紀州和歌山	平井文助	全 今治	阿部利三郎
筑前福岡	長濱竹治郎	讃岐高松	岡田為助
全 博多	右田喜久郎	土佐高知	澤本駒吉
作州津山	實田房一郎	阿波德嶋	阪井萬吉
備後福山	整理吉		

32
147



Handwritten text at the top of the page, partially obscured by the redaction. The text is faint and appears to be a date or a reference number.

Handwritten text at the bottom of the page, partially obscured by the redaction. The text is faint and appears to be a signature or a note.

32

147

036739-000-2

32-147

現行身代限法解

戸田 十畝/編

M18

BBS-0173



